

小学校水泳授業における民間等屋内プールの活用について

1. 令和 6 年度試行実施の状況

(1) 実施校等

学校名	期間（※予定を含む）	利用施設名	移動方法
第二小学校	7月8日～9月27日	金田スイミングクラブ立川立飛	送迎バス (片道平均10分)
松中小学校 (※R6 新規)	6月4日～7月5日	金田スイミングクラブ立川立飛	送迎バス (片道平均20分)
大山小学校	5月31日～10月4日	メガロス立川北館	送迎バス (片道平均15分)

(2) 実施回数・時間

体育科における水遊び（1～2年生）、水泳運動（3～6年生）については、各学年5回（1回あたり45分～50分程度）実施する。

なお、移動時間及び着替え等の準備、片付けに要する時間は指導時間に含めない。

(3) 指導内容

指導内容は、「小学校学習指導要領解説体育編（平成29年告示）」の内容を基本とし、実施校の年間指導計画の学習内容等を基に、実施校と事業者で打ち合わせの上、決定する。

(4) 指導体制

教職員と事業者が配置するインストラクターが、チームティーチングにより、実態に応じた効果的な水泳指導ができるよう指導体制を組んで実施する。児童を原則20人以下のグループに分け、各グループにインストラクターを1名以上配置し、泳力別の水泳指導にあたる。

なお、水泳指導時間中は、他者のプール使用を禁止し、本業務の専用として使用する。

(5) 評価(令和6年度新規実施の松中小へのアンケート)

①水泳授業中の児童の様子について

- どのグループも笑顔を絶やさず、真剣に取り組んでいた。
- 泳力別に取り組むことで、少人数で密度の濃い指導を受けることができた。児童の満足度も高まった。

②児童の泳力向上について

- 学校での水泳授業では難しい、全く泳げない児童の指導が可能となった。
- グループ分けにより、児童の課題に合った指導ができ、泳力の向上した児童が多くいた。

③移動・着替えについて

- 学校で着替えていくことで、着替えの時間を短縮し、指導時間に充てることができた。

④インストラクターによる指導について

- 泳力別にきめ細かく指導してもらえた。
- 一人ひとりの課題を適切に見抜き、課題に沿った指導をしてもらえた。

⑤インストラクター・事業者との連携、情報共有等について

- 学校の要望も聞き入れて指導してもらえた。

⑥屋内プール施設について

- 猛暑や雨など、気温・天候に関係なく使用でき、衛生的である。
- 水温・室温・水深（可変式）・設備、いずれもとても良い。

⑦教職員の負担軽減について

- 教員は児童の安全管理と評価に重点を置くことができるため、負担軽減が大きく進んだ。
- 朝早くや昼休みに生じていた、水量や水質の管理業務にかかる負担がなくなった。

⑧その他

- 水泳学習の民間委託は、子どもにとっても教員にとっても非常にメリットが多い。
- 教員の働き方改革の観点からも推進すべき取組である。
- 次年度以降も継続してもらいたい。

(6) 令和6年度継続実施の2校（二小・大山小）の状況

昨年度のアンケートでの課題については、次のとおり対応できている。

- 時間帯によっては交通渋滞があったが、学校で着替えていくことで、着替えの時間を短縮し、指導時間に充てることができた。
- 授業時間とその前後に事業者と直接話す時間を取れない課題があった。対応策として、春休みに事業者とスイミングクラブで打ち合わせを行うことで、準備を整えられた。

2. 今後の方向性等について

水泳授業における民間等屋内プールの活用については、「小学校での展開において、教育課程の編成や授業時間確保などの点で実現可能性があり、あわせて財政効果（※）を見込める」ことから、令和5年度から2校で試行実施することを決定した。その後、令和5年度実施校での実績に基づく効果検証の結果から本取組の有効性を確認し、令和6年度は新たに1校を加えた3校で試行実施し、同様の良好な結果が得られている。

教育的効果とあわせ、財政効果を見込むうえで、学校プール施設の老朽化に伴う改修・改築を予定している小学校から優先的に、民間等屋内プール施設での水泳授業への移行の検討を進めてきたが、全市立小学校での展開を見据えつつ、今後の方向性を次のとおり整理する。

※財政効果（令和4年9月26日文教委員会にて報告）

民間等屋内プールを活用する場合と、学校プールを建設・維持管理する場合を比べると、50年間で小学校1校あたり約1,740万円の財政効果を見込める。

○令和7年度での試行実施予定

- ・令和6年度実施の3校での継続実施（二小、松中小、大山小）
- ・新たに3校について民間等屋内プール施設での水泳授業に移行
 - 第六小学校 …新たな委託先（マイ・エス・スイミング国立）まで徒歩で移動可能なため。
 - 西砂小学校 …児童数及び学級数が市内小学校で最も多く、水泳授業の運営に苦慮している。また、学校プール施設が老朽化しているため。
 - 上砂川小学校…学校プール施設の老朽化が著しいため。

○令和8年度以降の方向性等

令和7年度に活用を予定している3か所の民間屋内プール施設を活用し、通年（5月～翌年2月）で水泳授業を実施することにより、将来的に（令和11年度を目途に）市内全小学校19校の民間等屋内プール施設を活用した水泳授業への移行を検討する。

あわせて、民間事業者のプール施設のみを活用することによるリスクも想定されるため、運用面等について調整が必要ではあるが、柴崎体育館及び泉体育館のプール施設活用も検討していく必要がある。

3. 多摩26市の状況

令和6年度において、26市中15市が、民間事業者等が所有又は管理しているプールを活用した水泳指導を行っている。

なお、多摩市は全ての小学校を対象としているが、本市を含め14市は一部の学校での実施となっている。